

郷土研通信



発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

エゾエンゴサク

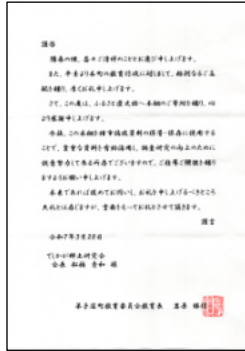
アイヌ語名
トマ (塊茎) - 北海道・樺太-
塊茎が食糧になった。

(アイヌ語アーカイブから要約)

近況報告

◎種市資料と郷土研資料の搬入

三月二十七日に多くの会員と教育委員会職員で作業を行いました。種市資料の残りは教育委員会で行うとのことです。本棚は教育委員会へ寄贈の手続きをし、教育長から礼状が届きました。



◎「知床 残された原始」写真展

北海道文化財団の助成金(二五万円)を予定していましたが不採択の通知がありました。弟子屈町は採択(一〇万円)になりました。資金不足は手分けして協賛金をお願いすることになります。

◎山本正裕さん

写真道展入選

第七二回写真道展「第一部自由」で入選の快挙をなされました。近いうちに山本さんの傑作を紹介する作品展を行いたいです。

歴史館企画展

今年は一九二六年一二月二六日から始まった「昭和」が一〇〇年になります。ふるさと歴史館では、これに関連する資料で振り返る企画展(山本学芸員が担当)を行っています。



勉強会

会員座談会

「アトサヌプリを語る」

第一弾

座談会先導者 斎藤敬子さん

―放送一〇〇年―

一九二五年三月にラジオ放送が開始されて一〇〇年。ラジオ・テレビの移り変わりを振り返る。

―「広報 てしかが」―

一九五一年から発行された「広報 てしかが」で昭和を振り返る。



企画展

アトサヌプリの通称

「青葉道路」で歴史を語りながら夏は馬車、冬は馬糧のツアーを開催していたことを話のきっかけに会員が持っている情報を語りました。

十数年前に登山客の落石事故以来、登山が禁止されたこと。それが近年、認定ガイドの同伴で解禁になったことなどなど。会員の情報量が意外と

多く時間切れとなり、次に予定していた小林さんのお話しは次回の例会に延期することにしました。

次回の例会

令和七年五月二八日(水)

一九:〇〇

ふるさと歴史館

勉強会

会員座談会

「アトサヌプリを語る」

第二弾

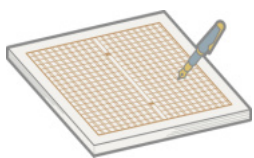
座談会先導者 小林俊夫氏

原稿募集

「むかしむかし写 真館」の原稿を募集します。

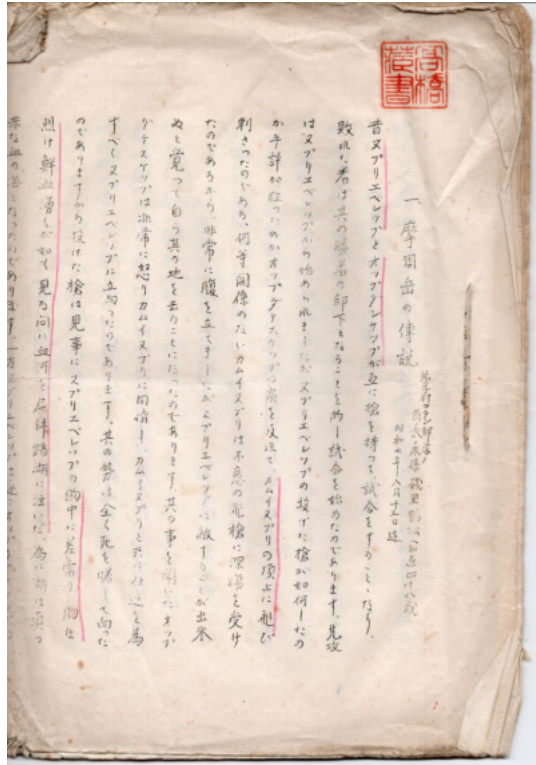
内容は弟子

屈に関するものであれば自由で、字数は八〇〇字程度、写真数点です。



むかしむか史写真館

No. 353



謄写版印刷の アイヌ伝説小冊子 （近藤直人調査）

手元に二冊の謄写版（通称「ガリ版」）印刷で和綴じの冊子がある。某氏が古書店から手に入れたものを預かり受けたものである。

表題はないが、

（紹介文中に現在では不適切な文言の記述があるが、歴史的文献として原文を尊重しそのまま記載し、話者の人物名は伏せ字とした）

弟子屈村コタン部落ノ

酋長ノ末孫

〇〇〇〇（和名）四十八歳
昭和七年八月十三日述
とあり

とあり

「摩周岳の傳説」「摩周中島の傳説」「摩周湖の水が他に流れ出るとの傳説」「オプタテシケヌプリの傳説」「和琴岬の傳説」「藻琴山麓の傳説」

が紹介されている。

続いて

阿寒部落

酋長***

和名〇〇〇〇

長女〇〇〇〇（二十七才）

昭和七年二月述、

和七・七・七

***八明治四

「厚岸名木逆水(オンコ)松の

十一年 六十二才ニテ死亡

由緒」「白糠アイヌ古城

「雄・雌阿寒山の傳説」

の由来」

が記載され、関連した伝説文の物語本文の末尾に

アイヌの人たちや明治になる少し前に移住した和人の古老から聴き取った十一

「之ハ釧路市茂尻矢居住ノ土人〇〇〇〇〇〇（六十六才）ガ阿寒ニ来リテアイヌ同志ニ話サレタルモノガ今日ニ傳ハリタルモノナリ」

この冊子の末尾には
昭和七年八月初旬
近藤直人調査
と記載され

と記載され

とある。

「阿寒湖の傳説」「毬藻の傳説」が紹介されている。

近藤直人は札幌農学校林学科を卒業し、「田村博士（筆者注：『阿寒国立公園の三恩人』

講述者 白糠村

の一人）とは林学を志す者同

〇〇〇〇 八十六歳（昭和七年八月十三日述）

とある。

白糠のアイヌ部落と時々攻めたりアイヌ世界の寶貝物を盗んたてて、白糠には和人で申して、庄屋格の地位に在るサレシムと云ふアイヌの屋敷に在りて、此のアイヌはインカムの攻めたりを何人も防がなげしむるなりと云ふので現在のサレシム部族の小高の所に牛城を築き、是れは此所に居りてアイヌの寶貝物を此所に保ち、城上となり、城の周圍には城の深き堀を掘り、之に線ナイカムの監視を付し、いかにありませぬ、其の後にインカムは攻め、未だ、今では十尺余りあり城内に攻入り、出た、家でありました。

古城は白糠村子シカカブと云ふ、白糠市南東、後、今、所々、城址や堀の跡形が遺りて居り、

昭和七年八月初旬 近藤直人調査

と題した新聞記事（釧路新聞当時）を阿寒地方の景勝地としての魅力を宣伝する記述も執筆している。

この小冊子もそれら阿寒地方を紹介する一環として取材したもので、聴き取った伝説の本文を口ウを塗った原紙に自ら鉄筆を握って一字一字削って綴ったもので、紹介文の隙間に添え書きをしているのは、推敲しながらの作業と思われる、削り終えた原紙を謄写版で刷り上げて、阿寒国立公園期成同盟会関係者に配布したものであろうか。

（松橋 筆）

（松橋 筆）

（松橋 筆）

（松橋 筆）

（松橋 筆）

（松橋 筆）

